

招待講演概要

招待講演 1

講演日時 : 11月9日(木) 12:00~12:40

講師 : Emily Moghaddas Ph.D.

Earth Scientist, Chief of Environmental, United States Air Force,
Kadena Air Base, Okinawa Japan

課題 : Protection of Soil and Water Resources at Kadena Air Base,
Okinawa, Japan

招待講演 2

講演日時 : 11月10日(金) 16:20~16:50

講師 : 大城博人氏

沖縄県企画部企画調整課主幹

課題 : 今後返還される駐留軍用地の跡地利用

招待講演 3

講演日時 : 11月10日(金) 16:50~17:20

講師 : 久高克己氏

沖縄県環境部 環境政策課基地環境特別対策室主任(技術)

課題 : 沖縄県米軍基地環境調査ガイドライン

【講演 1】

*開演日時 : 11月9日(木) 12:00~12:35

*講師 : Earth Scientist, Chief of Environmental, United States Air Force, Kadena Air Base, Okinawa Japan
Emily Moghaddas Ph.D.

*課題 : Protection of Soil and Water Resources at Kadena Air Base, Okinawa, Japan



Emily Moghaddas Ph.D.

Final Education/Degree:

Ph.D. – University of California at Berkeley: Environmental Science, Policy and Management

Career History:

2015-present: Earth Scientist, Chief of Environmental, United States Air Force, Kadena Air Base, Okinawa Japan

2012-2015: Biological Scientist, Environmental Section, United States Air Force, Kadena Air Base, Okinawa Japan

2003-2012: Soil and Watershed Scientist, United States Department Of Agriculture, Forest Service, California USA

2000-2009: Forestry Field Instructor, University of California at Berkeley, California USA

*講演概要

Dr. Emily E.Y. Moghaddas currently serves as Chief of the Environmental Section at Kadena Air Base, Okinawa Japan. In this capacity she oversees the management and conservation of natural resources located on the installation, as well as compliance with environmental governing standards. Projects include stabilization of eroding soils and protection of aquatic resources. Prior to moving to Japan, Dr. Moghaddas specialized in soil and watershed research of California's forest ecosystems. In addition to mitigating soil compaction and erosion impacts to water quality, she worked directly in forest fire management, including post-fire emergency watershed response, soil stabilization, prescribed fire, and treatment of forest fuels. For 10 years, Dr. Moghaddas taught forestry field courses for the University of California at Berkeley. Dr. Moghaddas received her Ph.D. in Environmental Science, Policy and Management from the University of California at Berkeley.

【講演2】

- *開演日時 : 11月10日(金) 16:20~16:50
- *講師 : 沖縄県企画部企画調整課主幹
大城博人 氏
- *課題 : 今後返還される駐留軍用地の跡地利用



大城博人 氏

*略歴

- 昭和48年 9月 沖縄県那覇市生まれ
- 平成 9年 3月 茨城大学工学部卒業
- 平成 9年 4月 沖縄県入庁
- 平成 9年 4月 沖縄県土木建築部中部土木事務所土木第1課
- 平成12年 4月 沖縄県土木建築部都市モノレール建設室
- 平成15年 4月 沖縄県地域・離島振興局宮古支庁土木建築課
- 平成18年 4月 沖縄県企画部科学技術振興課
- 平成22年 4月 沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課
- 平成24年 4月 沖縄県知事公室秘書課
- 平成25年 4月 沖縄県企画部企画調整課
- 平成28年 4月 沖縄県企画部企画調整課主幹

*講演概要

沖縄県の人口の8割以上が居住している沖縄本島の中南部は、市街地を分断する広大な基地の存在により、長期にわたり望ましい都市形成や交通体系の整備、産業基盤の整備など、地域の振興開発を図るうえで大きな課題を抱えてきた。

平成18年の日米安全保障協議委員会において、嘉手納飛行場より南の広大な基地の返還が合意され、平成25年4月には、「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」において、嘉手納飛行場より南の（普天間飛行場をはじめとする）6施設に関する返還区域（約1,048ha）及び返還時期が示された。

これらの基地は、沖縄の新たな発展のための貴重な空間であり、中南部都市圏の都市構造の歪みを是正し、県土構造再編にもつながる大きなインパクトを持っている。

一方で、これらの基地は、沖縄戦後に米軍による公・民有地の強制接収が行われたことから、民有地が約88%を占めている状況である。

沖縄県の米軍基地は、面積が広大であるばかりでなく、公有地が民有地に比べて極端に少ないため、基地跡地におけるまちづくりを円滑に進めるためには、返還前の早い段階から跡地利用計画を策定するとともに、道路や公園等の公共施設用地を確保する必要がある。

そのような状況を鑑み、平成24年4月には、「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」が施行され、同法において国による支障除去(原状回復)措置や、沖縄県や関係市町村等が土地を先行取得する制度が規定された。

そこで、沖縄県では、関係市町村及び地主会等と連携しながら、中南部都市圏を一体ととらえ、各基地跡地の特性を活かした開発を行うことにより、都市構造の再編及び都市機能の高度化を図り、沖縄全体の発展につながる都市の形成を目指し、返還前の早い段階から跡地利用計画の策定に向けた取組みを行っているとともに、土地の先行取得を行っている。

【講演3】

- *開演日時 : 11月10日(金) 16:50~17:20
- *講師 : 沖縄県環境部 環境政策課基地環境特別対策室主任(技術)
久高克己 氏
- *課題 : 沖縄県米軍基地環境調査ガイドライン



久高克己 氏

*略歴

- 平成12年 4月 名古屋大学理学部入学
- 平成16年 4月 名古屋大学大学院理学研究科物質理学専攻 入学
- 平成18年 4月 名古屋大学工学部物理工学科(材料工学)編入(半導体工学専攻)
- 平成21年 3月 名古屋大学工学部物理工学科 卒業
- 平成21年 4月 沖縄県文化環境部 環境政策課(環境アセス)
- 平成24年 4月 環境省水大気環境局(海洋汚染)
- 平成25年 4月 沖縄県環境生活部 環境政策課(環境政策)
- 平成26年 4月 沖縄県知事公室 広報交流課(国際広報)
- 平成28年 4月 沖縄県環境部 環境政策課基地環境特別対策室 主任(技術)

*講演概要

米軍専用施設の約70%が集中する本県では、その集中も一因となり、米軍活動に起因する様々な環境問題が生じている。

特に近年、返還された土地から発見された埋設物に起因する土壌汚染が顕在化し、跡地利用推進の大きな弊害となることから、その未然防止にも資するとして、平成24年に「跡地利用推進法」が改正され、返還時の日本国政府による徹底した汚染等の除去が規定された。

しかし一方で、跡地利用推進法に規定する物質以外の物質による汚染の懸念と、それに付随した、返還時の自然環境等への配慮、情報不足等により県民の安全・安心が十分に確保されていないといった問題が残っており、「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画（平成25年4月）」の示す米軍の再編が進めば、今後大規模な返還が予想されることから、右記問題への対策が急がれる。

平成29年3月に策定された沖縄県米軍基地環境調査ガイドラインでは、右記問題へのアプローチとして、「地下水・土壌汚染に関する対応」、「自然環境等に関する対応」及び「住民参画・情報公開に関する対応」を記している。

「地下水・土壌汚染に関する対応」では、返還に際し見過ごされる汚染がないよう、土壌汚染をベースに、汚染が起こるシナリオ、汚染を起こすおそれのある物質のカテゴリーごとに項目を分け、必要な調査方法を示している。特に、我が邦国内法で規制されていない物質については、その対策のレベルを判断するために必要なリスク評価の手法とその対象物質選定例が記されている。

「自然環境等に関する対応」では、自然環境等に配慮した返還プロセス及び跡地利用がなされることを目的として、自然環境等調査タイミングとその手法、そして調査結果の活用方法についてまとめている。

「住民参画・情報公開に関する対応」では、右記土壌汚染への対策検討あるいは自然環境等調査結果の計画への反映に際し、地権者のみならず、影響を受ける可能性のある、あるいは環境に関する情報を持つ地域住民、県民との対話や情報共有を通じ、円滑な跡地利用がなされることを目的に、住民参画・情報公開のタイミングとその手法についてまとめている。

ハイブリッドポスター発表プログラム（11月9日、10日）

セッション1 11月9日（口頭発表 9:45～11:10 ポスター発表 11:10～11:55）

- S1-01 沖縄県内表層土壌中の重金属類について
○川辺能成・原淳子・坂本靖英・張銘（産業技術総合研究所）
- S1-02 荒川低地における原位置長期熱負荷・自然放冷試験中の浅層地下水の水質変化
○杉江瞭・斎藤健志・川本健・小松登志子（埼玉大学）
- S1-03 汚染土壌及び不溶化処理土壌を用いた有害物質溶出挙動に関わる検討
○東野和雄・染矢雅之・佐藤綾子・下間志正（東京都環境科学研究所）
- S1-04 土壌の重金属溶出試験におけるメンブランフィルターの材質の影響
○渡邊隆史（三浦工業）
- S1-05 土壌・地下水汚染の措置・対策時の技術適用に関するアンケートの集計結果について（平成27年度実態調査）
○加洲教雄・中島広志・神谷光昭・白川武・門間聖子・技術実態集計分科会（土壌環境センター）
- S1-06 簡易遮水層併用型吸着層工法の提案 ～試験盛土を用いた簡易遮水層の効果検証～
○長谷川甫・西田憲司・三浦俊彦・森下智貴（大林組）・平井恭正（石原産業）・保高徹生（産業技術総合研究所）
- S1-07 カルシウム化合物によるセレンの固定
○吉田真理・須藤達也・渡辺哲哉（JFEミネラル）
- S1-08 リン酸カルシウム(DCPD)資材の土壌中ふっ素化合物との反応性評価
○中田沙紀・袋布昌幹・高松さおり・豊嶋剛司・山本桂一郎（富山高等専門学校）・萩野芳章（不動産テトラ）
- S1-09 酸化鉄資材によるヒ素・鉛の不溶化機構の解明
○平井恭正・宮原英隆（石原産業）・橋本洋平・亀田健太郎（東京農工大学）
- S1-10 MgOによる重金属の不溶化機構の解明に関する基礎的検討
○高野淳（太平洋コンサルタント）・岸森智佳（太平洋セメント）・長瀬孝宏（太平洋コンサルタント）松山祐介・肥後康秀（太平洋セメント）
- S1-11 シート状吸着材の重金属イオン吸着特性評価
稲富伸一郎・石川雅洋・中村茂・下田宏治（東洋紡）・西岡国夫（呉羽テック）・宮脇健太郎（明星大学）
- S1-12 微生物を利用した水銀等汚染地下水の浄化技術
○根岸敦規（安藤ハザマ）・杉尾剛（杉尾化学合成独立栄養細菌研究所）・竹内文章（岡山大学環境管理センター）
- S1-13 暗渠と重金属吸着資材を利用した汚染土壌対策方法について
○大石徹（日鉄住金セメント）
- S1-14 データ駆動解析によるヒ素の吸着予測
○黒澤孝太・中村謙吾・駒井武（東北大学）
- S1-15 散水型カラム浸透試験による自然由来ヒ素を含む岩石の溶出挙動評価
○乾徹・篠原智志・高井敦史・勝見武（京都大学）
- S1-16 自然由来重金属等含有土壌・岩石への対応事例と適正利用に関する考え方
○金澤孝仁・門倉伸行・門間聖子・有馬孝彦・汚染土壌等の適正な利用に関する検討部会（土壌環境センター）
- S1-17 1,4ジオキサンによる土壌および地下水の汚染状況に関する考察
○日高レイ・中島誠（国際航業）・駒井武・中村謙吾（東北大学）・中村公亮（国立環境研究所）
- S1-18 クロロエチレン基準化によるVOC広域汚染に対応可能な地下水循環嫌気バイオ法の検討
○伊藤圭二郎・酒井学・河合達司（鹿島建設）
- S1-19 経年変化した浄化用鉄粉のクロロエチレン対応性に関する基礎的検討
○根岸昌範（大成建設）

- S1-20 ワインの搾りかすを用いたVOC汚染浄化に関する検討
○高橋季之・三橋秀一(JXTGエネルギー)・井上潤一(シナプテック)・山口和昭(アバンス)・大橋貴志(NIPPO)・大保義秋(日本建設機械商事)
- S1-21 クロロエチレン類の分解経路及び分解微生物
○張銘・吉川美穂(産業技術総合研究)
- S1-22 難分解性有機汚染物質を対象とした地下水処理システムの性能確認結果
○塩谷剛・榎本幹司(栗田工業)
- S1-23 模擬油汚染地盤カラム内における孔内油相(フリープロダクト)の挙動
○大嶋篤・中川遼也・山本裕雄(エイト日本技術開発)
- S1-24 油臭抑制剤の油含有土壌の浄化促進効果について
○西川直仁・大西健司・大島義徳・石川洋二(大林組)
- S1-25 沖縄本島における油汚染土壌の微生物浄化の適用可能性と留意点について
○高畑陽・松村綾子(大成建設)・中野拓治(沖縄汚染土壌浄化技術研究会)
- S1-26 バイオパイルにおけるモニタリング手法の検討
○高柳宏・金城和哉(南洋土建)・門倉伸行・佐々木静郎(熊谷組)・村田 均・川口博史(テクノス)
- S1-27 沖縄県の土壌から単離した鉱物油分解菌について
○富井春幸(EM研究機構)・徳元秀光(沖縄環境調査)・上原和則(福山商事)・伊禮敏郎(太名嘉組)
- S1-28 利用形態の異なる土壌中の安定同位体セシウムの存在形態と経時変化
○山崎俊樹・伊藤武夫・石山高・梅沢夏実(埼玉県環境科学国際センター)
- S1-29 海水混じり地下水からストロンチウムを除去するための吸着材の検討
○河合達司・川端淳一・小澤一喜・大橋麻衣子・瀬尾昭治(鹿島建設)
- S1-30 土壌汚染調査時における埋設物を損傷させない削孔技術の開発
○嶽本政宏・森拓雄・土井暁・松浦亮・佐波弘一朗・黒岩正夫(大林組)
- S1-31 バネ式フィルターによる地下水の地盤返送
○石川明・芹澤貞美・田崎雅晴・林秀彦・依田侑也(清水建設)
- S1-32 Fluoride removal with Cow Dung Carbon
○ V. Sivasankar, K. Omine (Nagasaki University)
- S1-33 中国の土壌環境を取り巻く状況と法規制強化の動き
○羽瀨博臣・仇啓涵(住化分析技術(上海))・大悟法弘充(住化分析センター)・羅旭彪(南昌航空大学)・冷健雄(江西智匯環境技術)
- S1-34 タイにおける土壌・地下水汚染に関する法令の概要
○松本茂・加藤明・西岡公威・白井昌洋(イー・アンド・イー ソリューションズ)・Poonsak Chanchampee(Waste Management Siam)

セッション2 11月9日(口頭発表 13:30~14:55 ポスター発表 14:55~15:40)

- S2-01 水との接触に伴う岩石中の砒素、セレンの溶出量変化の検討
○山田優子・平山利晶・中島誠・嵐正治・三好壮一郎 (国際航業)
- S2-02 土壌汚染対策GISの運用評価について
○美坂佳織・山本雅也・大岡啓史・吉田宗久・吉川克彦・CSCC WG6(土壌汚染対策コンソーシアム)
- S2-03 カラム溶出試験による自然由来・人為由来のフッ素・ホウ素の溶出特性評価
○保高徹生・井本由香利・黒澤暁彦(産業技術総合研究所)
- S2-04 電位変調電気浸透法によるモデル土壌中のカドミウム除去過程の変調パラメータ依存性
○梶原佑紀・中谷清治(筑波大学)

- S2-05 既成杭施工時の汚染拡散防止と汚泥無害化
○田中薫・三浦俊彦・西田憲司(大林組)
- S2-06 ヒ素高蓄積植物モエジマシダによるヒ素含有廃水浄化方法の開発
○黄毅(東北大学大学院・東北学院大学)・宮内啓介(東北学院大学)・水戸光昭(仙台市交通局)・遠藤司(応用地質)・井上千弘(東北大学大学院)・遠藤銀朗(東北学院大学)
- S2-07 鉄粉洗浄磁気分離法によるヒ素含有泥土の浄化事例とフッ素への適用性検討
○石神大輔・伊藤圭二郎・川端淳一(鹿島建設)・仁木丈文(MSエンジニアリング)
- S2-08 増粘物質を用いたDCPDスラリー注入方法の検討
○松下祐也・藤田巧(チヨダウーテ)・袋布昌幹(富山高等専門学校)
- S2-09 不溶化処理土の長期安定性に関する現場調査事例(その2)
○松山祐介・守屋政彦(太平洋セメント)・中島之幾・大住学・竹田敏彦(小野田ケミコ)
- S2-10 中国汚染土壌の封じ込め技術に関する基礎研究
○山田百合子・伊藤洋(北九州市立大学)・吉田憲幸(上海速宜環境科技)
- S2-11 鉄粉によるヒ素/フッ素、カドミウム/フッ素同時除去方法の開発
○飯島勝之・吉川英一郎・古田智之(神戸製鋼所)
- S2-12 樹木による汚染物質拡散制御に関する基礎研究
○井畑貴悠紀・井上千弘(東北大学)
- S2-13 ドロマイト系環境浄化剤によるヒ素の吸着
○星智大・田村俊孝・成瀬辰郎・鶴永賢・川島健(吉澤石灰工業)
- S2-14 汚染土壌に含まれる自然由来ヒ素の化学形態の解明
○板橋智彦・小林和樹・橋本洋平・細見正明(東京農工大学)
- S2-15 掘削堆積岩からのヒ素溶出特性とヒ素形態との関係
渡邊真梨子・○加藤雅彦(明治大学)
- S2-16 土の解砕・粉碎処理の違いが鉛・ヒ素溶出挙動に及ぼす影響 ―構成鉱物の違いによる比較―
○上島雅人・肴倉宏史(国立環境研究所)・橋本洋平(東京農工大学)・保高徹生(産業技術総合研究所)・細見正明(東京農工大学)
- S2-17 クロロエチレン類の土壌中での吸着・気化拡散挙動に関する情報の調査解析
○小林剛・河原知希・田小維(横浜国立大学)
- S2-18 クロロエチレン類脱塩素分解速度の濃度依存性
○吉川美穂・張銘(産業技術総合研究所)
- S2-19 VOC分解時における脱塩素コンソーシアムについて
○澤渡祥・渡辺哲哉(JFEMネラル)・井上千弘(東北大学)
- S2-20 鉄粉によるVOCsの分解に伴うCE生成について
○竹島綾乃・日野真里子・野崎順兵・日野成雄・友口勝(DOWAエコシステム)・横山圭一(ジオテクノス)
- S2-21 *Rhodococcus jostii* RHA1株を用いる塩素化エチレン汚染地下水の浄化試験
○伊藤雅子・渡邊亮哉・高畑陽(大成建設)
- S2-22 塩素系VOC汚染土壌対策におけるサステナブルアプローチの試適用一ケーススタディ(3)
○古川靖英(竹中工務店)・保高徹生(産業技術総合研究所)・舟川将史(竹中工務店)・小林剛(横浜国立大学大学院)
- S2-23 ダイレクトセンシング・OIP(光学画像プロファイラー)を使用した油汚染地盤のスクリーニング技術
○王寧・角田真之・山内仁(アイ・エス・ソリューション)・佐藤秀之(ランドコンシェルジュ)
- S2-24 アルカン分解遺伝子を指標とした油分解促進剤の効果確認
○大島義徳・大西健司・西川直仁(大林組)

- S2-25 燃料油による汚染土壌のオンサイト型バイオレメディエーション技術(その2)
○田中宏幸・西村咲希・中島卓夫・西村良平・仲賢(鴻池組)・堤純一郎(琉球大学)
- S2-26 シバを用いた油汚染土壌のファイトレメディエーション6
○日下部友昭・大志万浩一・石尾将吾(住友林業)・藤田昌志(住友林業緑化)
- S2-27 地下水汚染調査法に関する数値解析的検討
○白石知成(清水建設)
- S2-28 車両に積載された大型土のう袋の放射能濃度測定技術
○山崎啓三・高田尚哉・山下秀文・納多勝・日笠山徹巳(大林組)・鈴木敦雄(ミリオンテクノロジーズ・キャンベラ)
- S2-29 放射性セシウム汚染土壌および模擬汚染土壌を用いた分級・分散・分離の検討
○伊藤健一・石川雅貴(宮崎大学)・高桑駿・湊川和貴(北海道大学)・富田洋平(JFEエンジニアリング)・伊藤真由美(北海道大学)
- S2-30 除去土壌に対する放射性濃度分別装置の実証
○荻野晃・西邦夫・木川田一弥(安藤ハザマ)・田窪芳久・川部昌彦・加嶋宏章(日立造船)
- S2-31 1,4-ジオキサン汚染地下水酸化分解処理の促進方法の研究(その2)
○緒方浩基(大林組)・西田憲司(大林組)・晴山涉(岩手大学)・大島義徳(大林組)
- S2-32 過硫酸法による1,4-ジオキサン分解における地下水の阻害要因とその低減化について
○水島祐希(岩手大学)・晴山涉(岩手大学)・緒方浩基(大林組)・西田憲司(大林組)・中澤廣(岩手大学)
- S2-33 サステイナブル・レメディエーション(SR)の取り組みと豪州での実例紹介
○水澤克哉・加藤明・佐藤徹朗・高畑陽・サステイナブル・アプローチ部会(土壌環境センター)

セッション3 11月9日(口頭発表 15:40~17:05 ポスター発表 17:05~17:50)

- S3-01 固液分離操作が土壌溶出量試験結果に与える影響
○井本由香利・保高徹生(産業技術総合研究所)・染矢雅之・東野和雄(東京都環境科学研究所)
- S3-02 GISを活用した自然由来土壌・地下水汚染可能性地域の推定
○杉谷晋一・藤井なつみ・小島愛・杉谷美智子・本田貴弘(アースアプレイザル九州)
- S3-03 酸化マグネシウムの土壌中での鉱物化学反応とその地球化学反応モデリング
○佐藤努(北海道大学)・野澤笑子(北海道大学・環境材料エンジニアリング)・長谷東子(北海道大学)・木下久美子・山本中一(環境材料エンジニアリング)・大竹翼(北海道大学)
- S3-04 バッチ溶出試験による土壌の重金属溶出濃度と総量の把握に関する検討
○伊藤健一・高橋ひろみ・佐伯朋子(宮崎大学)・岡本直人・野田典広(基礎地盤コンサルタンツ)
- S3-05 六価クロム汚染地盤の生物還元不溶化処理
○三浦俊彦・西田憲司・森下智基・井出一貴・長谷川甫・加藤顕(大林組)
- S3-06 建屋直下への土壌浄化薬剤注入法の開発(その2)
○西田憲司・三浦俊彦・日笠山徹巳(大林組)・大島浩(大阪防水建設社)・平井恭正・土光政伸(石原産業)
- S3-07 特殊添加材を併用した水銀汚染土壌の分級洗浄工法の実験的検討
○島田曜輔・根岸昌範・守屋雅之(大成建設)
- S3-08 鉄鋼スラグ混合による掘削土砂のヒ素不溶化機構の解明
○鎌田明秀・加藤雅彦(明治大学)
- S3-09 カラム試験による酸化鉄系材料の重金属処理特性とその機構に関する検討
○森田一太・土光政伸・平井恭正(石原産業)

- S3-10 可溶性シリカ共存下におけるMgO不溶化材によるホウ素の不溶化
○野澤笑子(北海道大学、環境材料エンジニアリング)、大竹翼、佐藤努(北海道大学)
- S3-11 植物によるセレンを含む浸出水の屋内外での水槽浄化実験
○岡崎健治・倉橋稔幸(土木研究所)・榊原正幸(愛媛大学)
- S3-12 カラム試験による不溶化後のトンネルズリ仮置き期間中におけるヒ素溶脱挙動
○榊原努・梅田敦・柘植太朗(メイホーエンジニアリング(現)メイホーエクステック)・加藤雅彦(明治大学)
・李富生(岐阜大学)
- S3-13 建設発生土自然由来重金属等汚染対策の手引き
佐藤健・山田優子(岐阜県建設発生土処理対策調査委員会)・種康雄・○石神正毅(岐阜県県土整備部)
- S3-14 表層地質情報に基づく建設発生土の溶出特性評価に関する研究
○原淳子・川辺能成・張銘(産業技術総合研究所)・永瀬弘喜(DOWAエコシステム)
- S3-15 大気からの沈着を配慮した土壌汚染未然防止のための大気排出管理手法の改善の検討
○グエンティールランビン・田小維・小林剛(横浜国立大学)
- S3-16 掘削残土からなる盛土からの浸出水の水質予測手法
○浦越拓野・川越健(鉄道総合技術研究所)・太田岳洋(山口大学)・熱田真一(アサノ大成基礎エンジニアリング)
- S3-17 土壌ガス採取・分析における課題と対応策について
○肥後徹・鈴木義彦(栗田工業)
- S3-18 原位置由来微生物コンソーシアを利用するバイオオーグメンテーション法の開発
○小松大祐(アイ・エス・ソリューション)・佐藤万仁・平野隆(沖縄総合科学研究所)・栗原裕子(オーピーバイオファクトリー)・田村紀義(PaGE Science)・養王田正文(東京農工大学)
- S3-19 VOCsおよび1,4-ジオキサンに対するマイクロバブルオゾン処理工法の適用に関する検討(その2)
○大橋貴志・片岡昌裕・尾本志展(NIPPO)・大保義秋(日本建設機械商事)
- S3-20 VOCsに対する微生物分解の温度影響と仮想汚染地盤での浄化シミュレーション
○山崎祐二・長谷川愛・稲葉薫(竹中工務店)・田小維・小林剛(横浜国立大学)・清水孝昭(竹中工務店)
- S3-21 1,4-ジオキサンの土壌中からの気固分離と健康リスク評価
○伊東玄樹・中村謙吾・駒井武(東北大学)
- S3-22 ダイレクトセンシング技術による高濃度汚染源の把握と浄化設計
○遠藤康仁・高木一成・小山真樹(地盤環境エンジニアリング)
- S3-23 難分解性有機化合物の分解浄化処理方法
○森川純・山本達生・石田能康・坂口伸也(前田建設工業)
- S3-24 バイオレメディエーションによる油分解試験とその適用について
○高橋大樹・伊藤久裕・澤渡祥(JFEミネラル)
- S3-25 油で汚染された沖縄特有の土壌(国頭マージ)のバイオパイル工法による浄化実証試験
○松田幸弘・崎濱秀明・村田憲久・蔵当三紀夫・中野拓治(沖縄汚染土壌浄化技術研究会)
- S3-26 ランドファーマーミング工法の攪拌頻度を最適化するための解析的検討
○河村大樹・佐々木静郎・門倉伸行(熊谷組)・石森洋行(国立環境研究所)
- S3-27 土質判別システムの開発
○八塩晶子・山田祐樹・松浦亮・大熊史子・日笠山徹巳(大林組)
- S3-28 粉じん飛散防止材の検討 ―中間貯蔵施設における即日被覆代替材としての適用―
○大橋麻衣子・辻本宏・小澤一喜・佐藤毅(鹿島建設)
- S3-29 土壌の放射性セシウム捕捉ポテンシャル(RIP)測定法についての検討
○池上麻衣子・下村遼平・福谷哲・Hendra Adhi Pratama・島田洋子・米田稔(京都大学)

- S3-30 瑞浪超深地層研究所における湧水中ふっ素・ほう素処理の検討について
○弥富洋介・見掛信一郎・松井裕哉(日本原子力研究開発機構)
- S3-31 自己修復機能を有するアスファルト系シートの二重遮水工法への適用検討
○柴田健司・日笠山徹巳(大林組)・諸留章二(クニミネ工業)
- S3-32 粒子形状制御による環境材料操作性向上の検討
○豊嶋剛司・袋布昌幹・高松さおり・佐藤勇氣(富山高等専門学校)
- S3-33 リスク評価のためのサイト概念モデル構築手法の調査結果
奥田信康・田中宏幸・白井昌洋・折茂芳則・横山直由・サステイナブル・アプローチ検討部会(土壤環境センター)

セッション4 11月10日(口頭発表 9:25~10:40 ポスター発表 10:40~11:25)

- S4-01 自然由来重金属含有土壌中における重金属の移動について
○伊藤健一(宮崎大学)・志渡澤義孝・三浦俊彦・日笠山徹巳(大林組)・森川義博(国土交通省)・肴倉宏史(国立環境研究所)
- S4-02 統計解析に基づくため池底泥内ヒ素の平面分布と溶出量に影響する化学的要因分析
○小川翔平(電力中央研究所)・佐藤敦(関市役所)・平尾征也・佐藤健(岐阜大学)・大竹雄(新潟大学)・加藤雅彦(明治大学)
- S4-03 土壌中の砒素分析を指向した比色反応の開発
○恒川はるか・間中淳・高松さおり・袋布昌幹(富山高等専門学校)
- S4-04 地下水透過性壁による地下水の中和およびふっ素浄化の実証実験
○加藤顕・日笠山徹巳(大林組)
- S4-05 シダ類植物による土壌中ヒ素の効果的除去
○簡梅芳・牧田涼太・井上千弘(東北大学)
- S4-06 生態系に配慮した改良材による河床堆積物の安定処理効果
○田中真弓・小澤一喜・大橋麻衣子(鹿島建設)
- S4-07 重金属汚染土壌に対する鉱物学的考察に基づく不溶化材の高度化
稲積真哉(芝浦工業大学)・稲澤知洋(緑商事)・岡田雄臣(京都大学)・中尾晃揮(明石工業高等専門学校)
- S4-08 中性型重金属不溶化材の諸特性に関する基礎的検討
○野崎隆人・松山祐介・森喜彦・守屋政彦(太平洋セメント)
- S4-09 中国の汚染土壌分析と不溶化の評価
○高橋雅和・伊藤洋(北九州市立大学)・吉田憲幸(上海速宜環境科技)
- S4-10 天然植物アブラナの茎及び内生菌によるカドミウム汚染廃水の結合修復に関する研究
○仇啓涵・羽瀨博臣(住化分析技術(上海))・肖瀟(南昌航空大学)・大悟法弘充(住化分析センター)・冷健雄(江西智匯環境技術)
- S4-11 自然由来重金属等含有建設発生土の盛土構造物を対象とした浸出水浄化マスの開発と利用方法
○打木弘一・野田典広(基礎地盤コンサルタンツ)
- S4-12 自然由来ヒ素汚染土壌の分離浄化工法の開発
○山本達生・野田兼司・岩田将英・須江まゆ・増田昌昭・河野浩之(前田建設工業)
- S4-13 上向流カラム通水試験の国際標準化への取り組み状況(3)
○保高徹生(産業技術総合研究所)・肴倉宏史(国立環境研究所)・田本修一(寒地土木研究所)・ISO/TC190部会(土壤環境センター)
- S4-14 土壌溶出量の公定分析における乾燥時間短縮方法の検討
○近藤俊介・海野円・高畑陽(大成建設)
- S4-15 バッチ式土壌溶出試験および上向流カラム通水試験を用いた鉛と濁度の挙動に関わる検討
○染矢雅之・東野和雄・佐藤綾子(東京都環境科学研究所)・保高徹生・井本由香利(産業技術総合研究所)・肴倉宏史(国立環境研究所)

- S4-16 1,4-ジオキサンの現場簡易土壌溶出試験方法に関する検討
○中島誠・日高レイ(国際航業)
- S4-17 原位置微生物処理によるクロロエチレンの分解事例
○佐藤祐輔・西田憲司・緒方浩基・日笠山徹巳(大林組)
- S4-18 鉄粉によるVOC土壌・地下水汚染の原位置分解 ～気泡を利用した地中攪拌工法～
○零靖昭・猪原和泰・坂井敬一(JFEミネラル)
- S4-19 半止水型土壌カラム中での揮発性有機塩素化合物の還元脱塩素反応の特性解析
○田小維・小林剛・鈴木一郎(横浜国立大学)・山崎祐二・長谷川愛・清水孝昭(竹中工務店)
- S4-20 VOC汚染土壌の加温式原位置浄化法における水処理設備の実用性評価
○向井一洋・古川靖英・舟川将史・清水孝昭(竹中工務店)
- S4-21 浮上油回収による環境修復目標設定のための模擬油汚染土壌の性状測定
○山本裕雄・中川遼也・大嶋篤(エイト日本技術開発)
- S4-22 ドレーン工法を用いた油回収に関する検討(その2)
○大塚誠治・関弘・河合達司・川端淳一(鹿島建設)・三成昌也・小柳勇也(錦城護謨)
- S4-23 化学酸化処理と微生物処理を併用した油含有土壌の浄化検討
○日野成雄・日野真里子・竹島綾乃・松浦健一(DOWAエコシステム)
- S4-24 微生物による油含有土壌の浄化効率に関する実験的検討
○小河篤史(奥村組)・石森洋行(国立環境研究所)
- S4-25 セシウム汚染土壌粗粒分の高度処理 ～超音波-分級処理に及ぼす粒子構造の影響～
伊藤真由美・○高桑駿・Carlito Tabelin1・広吉直樹(北海道大学)・伊藤健一(宮崎大学)・富田洋平(JFEエンジニアリング)
- S4-26 シート状吸着材の吸着特性評価方法の検討
○宮脇健太郎・布施典子(明星大学)・下田宏治(東洋紡)・西岡国夫(呉羽テック)
- S4-27 米国における基地汚染の事例
○張銘・吉川美穂・原淳子・川辺能成・杉田創(産業技術総合研究所)
- S4-28 固形凝集剤を用いた濁水処理方法の適用事例
○山下秀文(大林組)・小野晃正・門脇拓人(ジェイカムアグリ)・高田尚哉・三浦俊彦・山崎啓三(大林組)
- S4-29 土壌汚染区域における基礎杭の施工方法(その4)
○牧田晃介・沼田茂己・津野将馬(旭化成建材)
- S4-30 中国土十条(土壌污染防治行動計画)と、これ以降の土壌汚染調査対策
○山内仁(アイ・エス・ソリューション)・雷鳴(中国江蘇聖泰実田環境修復有限公司)・王寧(アイ・エス・ソリューション)

セッション5 11月10日(口頭発表 12:15～13:30 ポスター発表 13:30～14:15)

- S5-01 アロフェン・イモゴライトにおけるフッ素・ホウ素吸着機構について
○宮原英隆・平井恭正(石原産業)・森本和也・万福和子・鈴木正哉(産業技術総合研究所)
- S5-02 中国における土壌汚染の現状とファイトレメディエーション展開の可能性
○張文字・飯野浩成(フジタ)・常文越・王恒・趙光輝・劉智(瀋陽環境科学研究院)
- S5-03 還元環境を模した溶出試験方法に関する検討
○田本修一・倉橋稔幸(寒地土木研究所)
- S5-04 石炭フライアッシュ含有有害成分の溶出および水添加エージングによる溶出抑制
○関亜美・井上千弘(東北大学)・小川泰正(秋田大学)・黒山英伸・古田雅和・井樋幸輝(日本国土開発)

- S5-05 高炉スラグ微粉末による6価クロムの固定
○須藤達也・渡辺哲哉(JFEミネラル)・野口貴文(東京大学)・兼松学・文野光(東京理科大学)
- S5-06 酸性硫酸塩土壌の不溶化とその作用機構
○伊藤健一(宮崎大学)・國西健史・板谷裕輝(住友大阪セメント)・広門孝雄(中研コンサルタント)
- S5-07 中性改質材の選別効果に関する基礎的検討
○森喜彦・松山祐介・肥後康秀・守屋政彦(太平洋セメント)
- S5-08 土壌汚染対策の実務で有効な情報に関する検討
○一宮夕貴・奥村正孝・長千佳・山田康晴・吉川克彦(土壌汚染対策コンソーシアム)
- S5-09 6価セレンの不溶化処理に関する基礎的検討(その2)
○大山将(鴻池組)
- S5-10 酸化マグネシウム系資材のヒ素(V)不溶化に対する水和の影響
○木下久美子(環境材料エンジニアリング)・野澤笑子(環境材料エンジニアリング、北海道大学)・山本中一(環境材料エンジニアリング)・佐藤努(北海道大学)
- S5-11 生分解性キレート剤を用いた砒素汚染土壌のソイルフラッシングの基礎検討
○地井直行・齋藤誠(金沢大学大学院)・澤井光・長谷川浩(金沢大学)・山崎将義・石渡寛之(西松建設)
- S5-12 使用済ヒ素吸着材の環境安定性に及ぼす土壌の影響 ―マグネシウム系吸着材―
○杉田創・小熊輝美・張銘・原淳子(産業技術総合研究所)・高橋伸也(新エネルギー開発)
- S5-13 簡易遮水層併用型の吸着層工法の開発 ―数値解析に基づく盛土内の移流分散予測―
○鈴木和明(大林組)・保高徹生(産総研)・西田憲司・三浦俊彦・森下智貴(大林組)・平井恭正(石原産業)
- S5-14 地域特性を考慮した模擬津波堆積物による各種元素吸着特性に基づいた潜在的危険保有量
○谷川元治・加藤雅彦(明治大学)
- S5-15 土壌に含まれるホウ素の化学形態別評価法の整理および検討
○小林和樹・板橋智彦・橋本洋平(東京農工大学)
- S5-16 VOCsを対象とした地下水調査手法
○長野勝己・平川武士(再春館安心安全研究所)
- S5-17 *Dehalococcoides* 属細菌を利用したバイオオーグメンテーション適用検討
○榎本幹司・奥津徳也・廣常義比(栗田工業)
- S5-18 バイオスティミュレーション用薬剤の改良 実汚染サイトへの適用検討
○鶴岡佑樹・虫明晋哉・伊藤浩(東急建設)・小瀧光生・篠田功(ADEKA総合設備)
- S5-19 VOC汚染サイトにおける電気発熱による原位置浄化対策への影響について(その5)
○佐藤徹朗(国際航業、東京海洋大学)・瀬野光太(国際航業)・長曾哲夫(島津製作所)
- S5-20 鉄錯体を用いた種々の揮発性有機化合物の光分解における酒石酸添加の有効性の評価
○盛田凱矢・晴山渉(岩手大学)
- S5-21 土壌汚染対策法に基づく特定有害物質の見直しによる影響(第2報)
○上田剛・當田紀賢・安藤卓也(パナソニック環境エンジニアリング)
- S5-22 沖縄県内土壌由来の油分解菌による土壌浄化技術の開発
○比嘉一葉(アイ・エス・ソリューション)・田邊俊朗(沖縄工業高等専門学校)・古家克彦・吉川大介(沖縄県環境科学センター)・山入端豊(大鏡建設)・照屋正悟(照屋土建)
- S5-23 油で汚染された沖縄特有の土壌(国頭マーヅ)の浄化特性と効率的な浄化方法の基礎的検討
○中野拓治・崎濱秀明(沖縄汚染土壌浄化技術研究会)
- S5-24 複合微生物による油のバイオレメディエーション
○岩橋さおり・田村もゆ・鴻野雅一(バイオレンジャーズ)

- S5-25 除染事業で使用した仮置場等における原状回復時の留意点
○黒木泰貴・阿部美紀也・関澤卓・山下久子・放射性物質による土壌汚染調査対策検討部会(土壌環境センター)
- S5-26 地盤の水理定数調査におけるモンテカルロ法の適用
○渡辺和博・山田祐樹(大林組)
- S5-27 有機塩素系臭気土壌の対策事例
○千葉純也・福島誠二・藤野紘治・根岸敦規・青木貴均・秦浩司(安藤ハザマ)
- S5-28 土地の形質変更における杭打設等が準不透水層へ与える影響について
○平尾隆行・竹本誠(中電技術コンサルタント)・菊池喜昭(東京理科大学)・森脇武夫(呉工業高等専門学校)・服部晃(日本触媒)
- S5-29 Sustainable Remediationの社会実装に向けた取り組み
○保高徹生・張銘(産業技術総合研究所)・前川統一郎(国際航業)・鈴木寿一(キヤノン)・古川靖英(竹中工務店)・グリーン・レメディエーションWG(Sustainable Remediationコンソーシアム)
- S5-30 中国における土壌・地下水汚染に関する法律の動向
○加藤明・西岡公威・白井昌洋(イー・アンド・イーズリソリューションズ)・徐晓晶(苏州同和环保工程)

セッション6 11月10日(口頭発表 14:15~15:30 ポスター発表 15:30~16:15)

- S6-01 異なる温度条件下での地盤材料に含まれるヒ素の溶出特性評価
○高井敦史(京都大学)・瀬尾 葵(元京都大学, 現東京ガス)・乾 徹・勝見 武(京都大学)
- S6-02 上総層群堆積物における自然由来重金属等の溶出機構の熱力学的検討
○熱田真一(アサノ大成基礎エンジニアリング)・太田岳洋(山口大学)
- S6-03 アスコルビン酸溶液によって再生処理された鉄粉の砒素吸着性能
○海野円・根岸昌範・高畑陽(大成建設)
- S6-04 海綿状特殊鉄粉の特性と水田土壌系におけるカドミウム不溶化過程の検討
○押尾 彩加・栗田 純志(筑波大学)・鎌田 雅美(DOWAエコシステム)・中谷 清治(筑波大学)
- S6-05 簡易遮水層併用型吸着層工法の提案 — 汚染土からの砒素・セレン溶出特性を考慮した吸着層の設計 —
○森下智貴・三浦俊彦・西田憲司・長谷川甫(大林組)・平井恭正(石原産業)・保高徹生(産業技術総合研究所)
- S6-06 重金属吸着マットによる自然由来重金属の対策
○尾崎隆・澤渡梓(JFEミネラル)・五十嵐敏文(北海道大学)・田村拓四郎(アイコス)・田作淳(北陽)・森田一太(石原産業)
- S6-07 フローテーションによる水銀・農薬・ダイオキシン・鉱物油汚染土壌の浄化
○毛利光男・石鍋誠一(清水建設)
- S6-08 土壌中ふっ素化合物原位置不溶化のためのリン酸カルシウム資材の反応性向上
○袋布昌幹・山山峻紀・高松さおり・豊嶋剛司(富山高等専門学校)・松下祐也・藤田巧(チヨダウーテ)
- S6-09 水銀汚染土壌の揮発抑制工法の検討
○田邊康太・菅沼優巳(竹中土木)・奥田信康・舟川将史(竹中工務店)
- S6-10 貝殻片と不溶化剤を組み合わせた海成堆積物の低コスト・低負荷型汚染対策手法の開発
○石山高・八戸昭一・濱元栄起(埼玉県環境科学国際センター)
- S6-11 新しい地盤凍結技術を利用した汚染土壌対策
○山野辺純一・相馬啓・土屋勉(ケミカルグラウト)
- S6-12 酸化マグネシウム系不溶化材によるセレン汚染土壌の不溶化(その2)
○横島美香・上田陽一・中田英喜(宇部興産)
- S6-13 自然由来の砒素汚染泥水・浚渫土対策技術 — 比重分離・磁気分離システム —
○田中裕一・柳橋寛一(五洋建設)

- S6-14 重金属を含む再生資材の長期安定性に関する検討
○佐藤毅・川端淳一・河合達司(鹿島建設)・久田真・皆川浩(東北大学)・肴倉宏史(国立環境研究所)
- S6-15 自然由来ヒ素を含む掘削岩・土砂からのヒ素溶脱とヒ素形態との関係
○鈴木奨士・加藤雅彦(明治大学)
- S6-16 新規制動向を踏まえた土壤汚染調査手法の検討 ～文献調査結果と各物質の調査・分析における課題抽出～
○鈴木義彦・青木陽士・土谷猛・小川えみ・青木鉦二・新規制動向を踏まえた調査対策スキームの検討部会(土壤環境センター)
- S6-17 ヒーターを用いた原位置加熱浄化工法の紹介
○和知剛・北原亘・角田真之・小松大祐(アイ・エス・ソリューション)
- S6-18 *Dehalococcoides* 属細菌を利用したバイオオーグメンテーションによる地下水浄化適用事例
○原口崇・塩谷剛・奥津徳也・菊池毅(栗田工業)
- S6-19 土壤中揮発性有機化合物の加温による吸着平衡および溶出促進効果の検討
○久保大地・田小維・小林剛(横浜国立大学)・山崎祐二・清水孝昭(竹中工務店)
- S6-20 交流式気液接触の技術を用いた小型曝気装置の開発
○大久保雅彦・大坪紀友(エンバイロ・ソリューション)・大悟法弘充・西川浩一(住化分析センター)・齋藤道明(エムエスエンジニアリング)
- S6-21 二次元土壌を用いたVOC(1, 4-ジオキサン、ベンゼン、トリクロロエチレン)の拡散及び分布に関する調査
○中村謙吾・伊東玄樹・駒井武(東北大学)
- S6-22 超臨界流体による油汚染土壌中キノン類のオンライン抽出・分離分析の検討 ～微生物活動量のモニタ～
○松本恵子・山口忠行・舟田康裕(島津製作所)・打木弘一(基礎地盤コンサルタンツ)
- S6-23 掘削バイオ処理等に用いる土質改良材の効果比較試験
○大西健司・西川直仁・高田尚哉・日野良太(大林組)
- S6-24 高濃度油分の原位置浄化事例
○伊藤吉宏(日本物理探査)
- S6-25 亜熱帯地域の油汚染土壌の微生物叢把握と泡盛醸造副産物を利用した微生物活性剤の開発
○廣瀬(安元)美奈・横山裕子・宮城雄次・長浜夏樹・渡嘉敷唯章(トロピカルテクノプラス)
- S6-26 速効型中性系土質改良材の現場適用
○高田尚哉・三浦俊彦・光本純(大林組)
- S6-27 放射性物質が存在するおそれのある土地の形質変更時の留意点
○鈴木敬一・小西正郎・奥田清明・森岡錦也・放射性物質による土壤汚染調査・対策検討部会(土壤環境センター)
- S6-28 速効型中性系土質改良材の適用範囲検討
○井出一貴・三浦俊彦・高田尚哉・光本純(大林組)
- S6-29 特殊鉄粉を用いた沖縄土壤環境に対する提案
○古田智之・飯島勝之・吉川英一郎(神戸製鋼所)
- S6-30 ハイアラーカーカル・デシジョン・モデリング法に基づくサステナブル・レメディエーション意思決定ツールの検討
○張銘・保高徹生(産業技術総合研究所)・古川靖英(竹中工務店)・中島誠(国際航業)

企業展出展一覧表

(出展ブース順)

No.	企業名	展示内容(予定)
1	株式会社ランドコンシェルジュ	新製品GEO-SEAL、エアシスPLUS、新技術ISTD法 等
2	株式会社 協和	ポータブルガスクロマトグラフ「GC-8610T」製品紹介
3	緑商事株式会社	グリーンアース/汚染土・汚染泥土の無害化 スーパーアース/水質・低床浄化や赤潮抑制
4	太平洋セメント株式会社	酸化マグネシウム系重金属不溶化材/デナイトの機能や実績等を紹介しします。
5	ケミカルグラウト株式会社	CO2を利用した新しい地盤凍結工法「ICECRETE」
6	株式会社ジオレ・ジャパン	PCB・ダイオキシン等、特殊土壌処理について紹介
7	アジレント・テクノロジー株式会社	簡単操作のGCの紹介(実機展示)とHSS-GC/MSのVOC,塩ピモノマー分析例の紹介
8	株式会社 共立理化学研究所	パックテスト、多項目水質計、ひ素(低濃度)セット、流れ分析装置
9	南洋土建グループ	石油汚染土壌の生物分解手法である「ちゅらパイル工法」についての処理技術の説明
10	東洋紡株式会社	シート状有害イオン吸着材コスモフレッシュNANO™の紹介
11	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	浸出水浄化マス・孔内油層回収器・孔内油層回収装置の紹介
12	住友大阪セメント株式会社	重金属汚染対策材「マジカルフィックス」の紹介
13	DOWAエコシステム株式会社	重金属及び油分汚染土壌に関する弊社の対策技術をご紹介します。
14	株式会社ホージュン	ベントナイトによる汚染土壌の封じ込めと吸着層工法とのハイブリッド工法の提案
15	大栄環境株式会社	焙焼施設・ジオメルト処理施設を用いた汚染土壌の高度処理技術の紹介
16	株式会社日本海水	希土類を用いたヒ素等の汚染物質吸着による水・土壌の浄化
17	チヨダウーテ株式会社	環境負荷低減材料としてのフッ素不溶化剤及び石膏系中性固化材の紹介
18	株式会社アースプロテクト	水処理薬剤アースクリアと中性改質剤アースレフォルのご紹介
19	新日鉄住金エンジニアリング株式会社	特殊硫黄材を用いた地下水中の硝酸性窒素浄化技術の紹介
20	沖縄汚染土壌浄化技術研究会	沖縄汚染土壌浄化技術研究会における研究内容の説明
21	国際航業株式会社	「電気発熱法」VOC等汚染サイトにおける適用事例など
22	株式会社島津製作所	『電気発熱法』,「前処理から分離分析まで土壌・地下水分析手法」のご紹介
23	株式会社水循環エンジニアリング	溶媒洗浄:水洗浄では不可能な高濃度の重金属汚染土壌の洗浄浄化
24	宇部マテリアルズ株式会社	中性固化材・重金属不溶化材 グリーンライムシリーズのパネル展示
25	三浦工業株式会社	廃棄物, 環境媒体に適應するPCB分析用前処理装置の紹介
26	新日本グラウト工業株式会社	土壌汚染の調査及び対策、地盤改良工法についての展示を行います。
27	アステック株式会社	少量酸のマイクロ波酸分解装置と高感度ヒ素・セレン・水銀計の展示
28	大起理化工業株式会社	グルンドフォス社製MP1ポンプと新開発した1インチポンプを展示します

公開シンポジウム プログラム

日時 平成 29 年 11 月 11 日(土) 9:30～12:30

場所 沖縄県立博物館・美術館講堂

テーマ 地下水・土壌汚染対策による土地・水資源の利活用と地域振興に向けて

9:00～ 開場

9:30～ 9:35 開会挨拶
中野拓治(実行委員長:琉球大学農学部教授)

9:35～10:05 招待講演
黒瀬武史(九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門准教授)
『土壌汚染地の再生による都市・地域の再生
ー米国のブラウンフィールド再生を事例としてー』

10:05～10:30 報告講演①
大城博人(沖縄県企画部企画調整課主幹)
『今後返還される駐留軍用地の跡地利用』

10:30～10:40 休憩

10:40～11:05 報告講演②
松田幸弘(沖縄汚染土壌浄化技術研究会 会長代理)
『沖縄における汚染土壌の浄化技術について』

11:05～11:30 報告講演③
宮城俊彦(沖縄県衛生環境研究所 元所長)
『沖縄における地下水・土壌汚染』

11:30～11:40 休憩

11:40～12:30 討論会
沖縄県、市民団体、学識経験者、事業者等による討論会

12:30 閉会

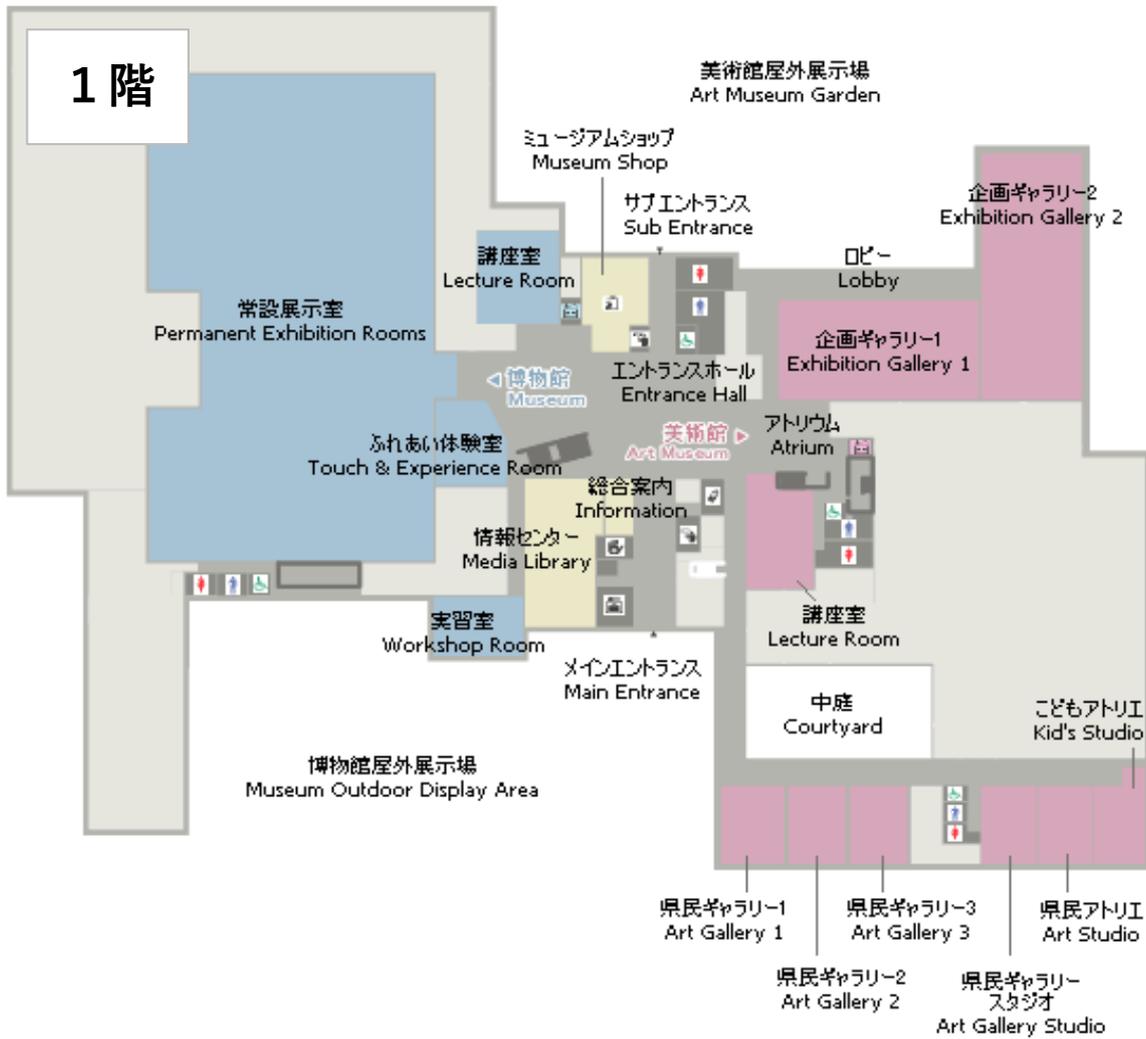
沖縄県立博物館・美術館交通案内図



交通手段（ゆいレールまたはバス）

- ・沖縄都市モノレール（ゆいレール） おもろまち駅下車 徒歩10分
- ・バス市内線 3・7・10番線 県立博物館前バス停下車

沖縄県立博物館・美術館館内案内図



公開シンポジウム会場案内図

沖縄県立博物館・美術館 3階 講堂

現地見学会行程表

日時 : 平成29年11月12日(日) 8:00~15:45(予定)

集合・見学場所	行程	備考
●沖縄県庁前	7:45 沖縄県庁前バス停集合 8:00 // 出発	7:45までに集合ください
バス移動-70分		
①座喜味城跡	9:10 座喜味城駐車場到着 9:50 // 出発	見学時間-40分
バス移動-40分		
②西普天間米軍返還跡地	10:30 西普天間現場駐車場到着 11:00 // 出発	見学時間-30分
バス・移動-25分		
③沖縄汚染土壌浄化技術研究会施設	11:25 南西環境研究所到着 11:55 // 出発	見学時間-20分 徒歩 -10分
バス・徒歩移動-10分		
●食事場所(公園)	12:05 公園到着『昼食弁当』 12:35 // 出発	食事時間-30分
バス移動-70分		
④米須地下ダム施設	13:45 糸満市米須現場到着 14:00 // 出発	見学時間-15分
バス移動-15分		
⑤硝酸態窒素除去研究施設	14:15 研究施設到着 14:35 // 出発	見学時間-20分
バス移動-35分		
●那覇空港	15:10 那覇空港到着 15:15 // 出発	内地等へお帰りの方は那覇空港で下車下さい
バス移動-30分		
●県庁前	15:45 県庁前バス停到着 『解散』	

